

国語科（書写）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○目的や必要に応じて、文字を選んで効果的に書かせる学習について、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○生徒が主体的に学習に取り組むようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜毛筆と硬筆との関連＞</p> <p>○毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜各教科や日常生活との関わり＞</p> <p>○書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるために、資料の内容には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料の配置や手本との関連には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○用語・記号などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材の内容や解説・説明の仕方について、生徒の言語能力の発達の段階に応じて、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>新しい書写</h1>	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○六つの過程が設けられ、単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。 ○毛筆では、穂先の動き等の基本点画の筆使いを朱墨と淡墨を用いて示されている。「書写のかぎ」という注意点を踏まえて、毛筆で課題に取り組むよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう」で書体を比較し説明させたり、指でなぞって考えさせたりすることで、学習のポイントを意識できるよう構成されている。 ○「生活に広げよう」で、効果的な文字の選択や場面・相手の設定等、単元ごとの学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう題材が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が見通しを立てて主体的に学べるよう、基本単元は「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」で構成されており、ポイントが「書写のかぎ」で示されている。 ○「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価について、自分の言葉で説明し、話し合い活動を通して自らの学びを深められるよう工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画を学ぶ際、「見つけよう」という項目で硬筆から課題を意識させ、「確かめよう」という項目で毛筆の点画の書き方を確かめる流れになっている。 ○「生かそう」という硬筆教材を設定し、毛筆で学んだ文字の配列や点画の連続・変化等を、硬筆で生かせるように毛筆と硬筆の関連が図られている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年、「生活に広げよう」という項目が設けられており、依頼状・お礼状の書き方等、生活の様々な場面を通して、日常生活との関わりが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と筆記具の持ち方」について写真を使って解説されている。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。 ○巻末の「書写活用ブック」で様々な書式や漢字表が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラム「文字といっしょに」が設けられている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。姿勢と筆記具の持ち方・書写テスト・運筆動画等が見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字が配されている。中心事項について色を変えて記され、指でなぞって書く練習が加えられている。「始筆・送筆・終筆」が「とん・すう・ぴたっ」と示されており、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○書写での学びを生活に生かすことができるよう題材が設定されている。 ○書写の知識や技能を身に付けられるよう、行書に特徴的な動きをパターン化し、「行書のまとめ」や「書写テスト」で繰り返し確かめ、定着を図るよう構成されている。 	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">現代の書写</h1>	1 5 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○七つの過程が設けられ、単元が展開されている。具体的な字形例を基に、書き方のポイントが示されている。 ○毛筆の筆使いに、筆圧・穂先の動きを朱墨・淡墨で示されている。行書の横に楷書の手本が並べて示され、学びの定着を図ることができるような工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけよう」の問いによって、書体を比較しながら学習のポイントを見つける等、単元の課題を意識できるよう構成されている。 ○「やってみよう」で、場面に応じた効果的な文字の選択等、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的にポイントを捉え、見通しを立てて学習に臨めるよう基本単元が「書き方を学ぼう」「書いて身につけよう」で構成されている。 ○「振り返ろう」で、学習目標と連動した課題により、学んだことが実際に活用できるか書いて確認し、自らの言葉で記述できるよう工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○点画の種類と筆使いを毛筆で学んだ後で、「書いて身につけよう」という硬筆教材が設定され、毛筆と硬筆の関連を図られている。 ○毛筆で学んだことを硬筆に生かそうということで、古典や身の回りの様々な書式を硬筆で書く学習が取り入れられている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年、「やってみよう」という項目が設けられており、情報誌や名言集等を作る取組を通して、日常生活との関わりが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と構え方」で姿勢や用具の持ち方等について写真を使って解説されている。また、「楷書・行書一覧表」では楷書体と行書体が併記されている。 ○巻末の「資料編」は「日常の書式」と「書写の広場」に分かれ、書き初め手本等が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラムが記載されている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。硬筆・毛筆の姿勢・運筆・コラム関連動画等が見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右ページに学習目標と学習の流れ、左ページに教材文字が配されている。学習の中心事項が文章で記されており、学習課題に結びつくような工夫がされている。運筆指導に対応し「穂先」の説明では、筆の動きが見て分かるように示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材が見開きで構成され、書き方のポイントや学習内容が一覧で示されている。 ○「書いて身につけよう」では、学習したことを多様な場面で主体的に活用できる力を身に付けることができるよう構成されている。 	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○八つの過程が設けられ、基礎・基本の定着を目指して単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。 ○毛筆では、基本的な点画や穂先の動きを2色の薄墨で示されている。硬筆で「試し書き」をして「まとめ書きと応用」で熟語も一緒に学べるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の問いで書体や文字同士を比較したりその差異を考えたりしながら、学習のポイントを意識できるよう構成されている。 ○「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」で、各教科の書く活動と連動させ、学習内容を生かして表現活動に取り組むことができるよう構成されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本単元は「考えよう」「生かそう」で構成され、学習手順を明確化させることで、生徒自身がどのように学ぶか見通しが立てられるようになっている。 ○「振り返ろう」で、学習目標と連動した自己評価を「○=できた」「△=もう少し」の記号を書き込み、自らの学びを確認できるよう工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「試し書き」という項目で硬筆、「考えよう」という項目で毛筆の課題を発見・確認し、それを生かして硬筆の書き方を改めて学習する流れになっている。 ○基本点画を学習する単元の終末に、これまで毛筆で学習したことを硬筆で生かして書く学習を取り入れている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校生活に生かして書く」等の項目で、本の帯やポスターの書き方等の学習を紹介し、日常生活との関わりが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢と用具の使い方」について写真を使って解説されている。また、「漢字一覧表」は常用漢字を小・中学校ごとの部首別に楷書体と行書体が併記されている。 ○巻末で日常の書式を紹介した「書式の教室」や、「書き初め」手本等が取り上げられている。また、随所に写真図版と解説を交えたコラムが設けられている。 ○QRコードを読み取ることで提供されるデジタルコンテンツがある。用具の準備や運筆等学習に役立つ動画が見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの片方のページに学習目標と教材文字、もう一方に学習の流れが配されている。学習の中心事項について書き込み欄が設けられ、学習課題に結びつくよう工夫されている。筆圧が「1の力、2の力、3の力」と示され、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○半紙形を維持した紙面で教材文字に中心点を入れている。 ○各教材で、授業のはじめに「試し書き」で自分の課題に気付き、授業の終わりに「まとめ書き」で振り返り、「書く力」を身に付けるよう構成されている。 	

書名 項目	<h1>中学書写</h1>	38 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">光 村</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○六つの過程が設けられ、知識や技能の定着を目指して単元が展開されている。「目標」が示され、学習の見通しが立てられるよう工夫されている。 ○「書写ブック」を用いて硬筆課題に取り組み、毛筆での学習の定着につなげている。毛筆では、筆使いや穂先の動きが濃淡のある朱墨と薄墨で示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の活動を通して、文字を観察・比較することで、自ら学習のポイントを発見、意識できるよう構成されている。 ○「生かそう」で、場面や目的に応じた効果的な文字の選択について、演習を交えながら実生活に生かせるよう構成されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本単元は「考えよう」「確かめよう」「生かそう」で構成され、ポイントが「学びのカギ」で示され、生徒が見通しを立てて主体的に学習に取り組めるようになっている。 ○「振り返ろう」を学習目標の下に配置し、自己評価の内容を意識して振り返ることで、自らの変容を確かめられるよう工夫されている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本点画を毛筆で学習した後で、学習したことを生かして硬筆で書く「生かそう」という教材が取り入れられている。 ○毛筆の基本点画を学んだ後で、学習したことを日常に生かして硬筆で書く「書写ブック」という教材が設けられ、毛筆と硬筆の関連が図られるよう工夫されている。 <p><各教科や日常生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日常に役立つ書式」や「国語・学校生活」の項目で、冊子の書き方や職業ガイド新聞等の活用例が示され、日常生活との関わりが示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「姿勢・筆記具の持ち方」について写真を使って解説されている。また、「常用漢字表」「人名用漢字表」は楷書体と行書体が併記されている。 ○巻末で「日常に役立つ書式」「書き初め手本」等が取り上げられている。また、随所にコラムが設けられ、写真図版と解説を交えて掲載されている。 ○QRコードを読み取ることで、用具の準備や運筆等学習に役立つ動画が見られるようになっている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きで学習目標と学習の流れ、次ページに教材文字が配されている。学習の中心事項が文章で記され、学習課題に結びつくよう工夫されている。「始筆・送筆・終筆」が「トン・スー・トン」や「ぴよん、ぴたっ」で示され、運筆指導に対応している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「書き初めマスターブック」で、書き初めの由来やポイントが掲載されている。 ○「書写ブック」で、毛筆での学習を硬筆に生かし、定着できるよう工夫されている。国語教科書と連動した教材が全学年で掲載されている。 	

国語科（書写） 調査資料2

○分量について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村
1 総ページ数 ※目録に記載されたページ数	1年	145	120	146	165
	2年				
	3年				
2 単元数	1年	3	3	3	2
	2年	2	3	3	2
	3年	1	1	2	2
3 QRコードの数	1年	13	17	15	19
	2年	9	10	12	12
	3年	4	3	6	9

○指導事項等の教材数について

内容	学年	東書	三省堂	教出	光村			
1 総教材数 ※本編中における主たる手本の数	1年	12	11	11	9			
	2年	10	9	6	8			
	3年	5	3	3	6			
2 手本の種別数	毛筆	漢字の楷書及び調和した仮名		1年	5	4	5	5
				2年	1	2	0	2
				3年	0	1	0	2
		漢字の行書及び調和した仮名		1年	4	4	4	4
				2年	8	6	6	6
				3年	5	2	3	4
	硬筆	1年	3	3	2	0		
		2年	1	1	0	0		
		3年	0	0	0	0		
3 教材の扱い種別数	硬筆と毛筆との関連を図った教材数		1年	4	5	6	3	
			2年	4	2	4	3	
			3年	0	1	1	0	
	目的や必要に応じて楷書または行書を選んで書く教材数		1年	0	0	0	0	
			2年	2	2	1	1	
			3年	2	2	1	1	
	社会生活に役立つ学習のための教材数		1年	3	1	2	1	
			2年	2	2	3	3	
			3年	3	2	2	5	